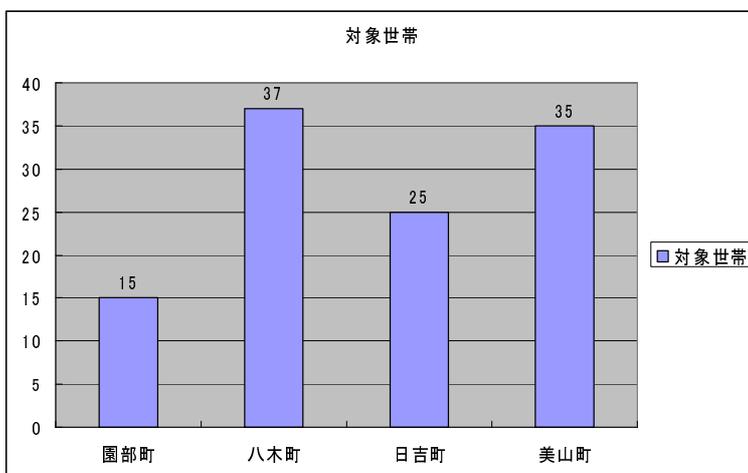


集落調査報告書

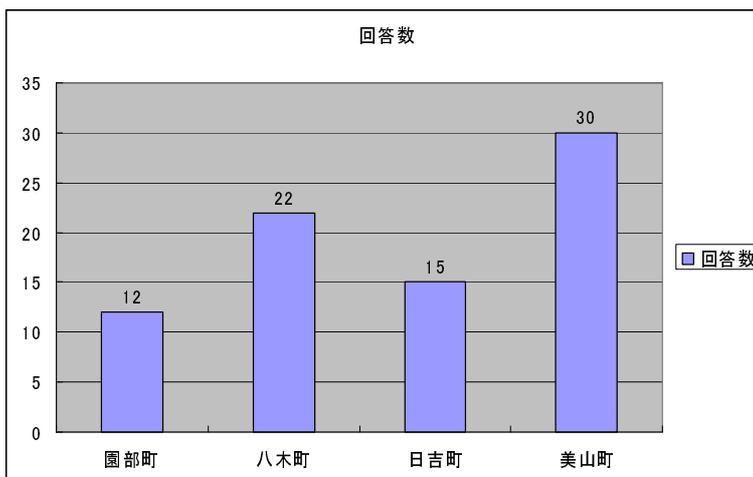
平成22年1月
南 丹 市

1 バス等の公共交通機関の利用が不便だと思われる市内の17集落を抽出し、平成21年11月中にその集落内の70歳以上の高齢者世帯112世帯を戸別訪問し、生活行動と利用されている交通及びその満足度等について聞き取り調査を行った。

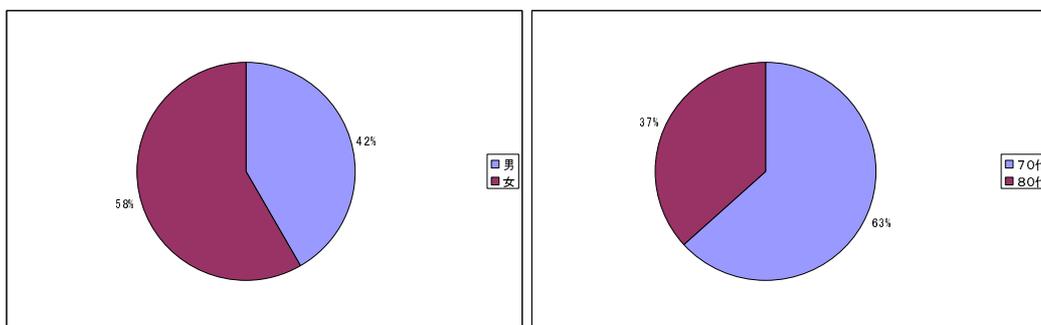
なお、調査対象は園部町（法京、曾我谷、熊原）15世帯、八木町（北屋賀、氷所、鳥羽、神吉和田）37世帯、日吉町（畑郷、海老谷、生畑、中世木）25世帯、美山町（知見、野添、長谷、洞、音海、肱谷）35世帯である。



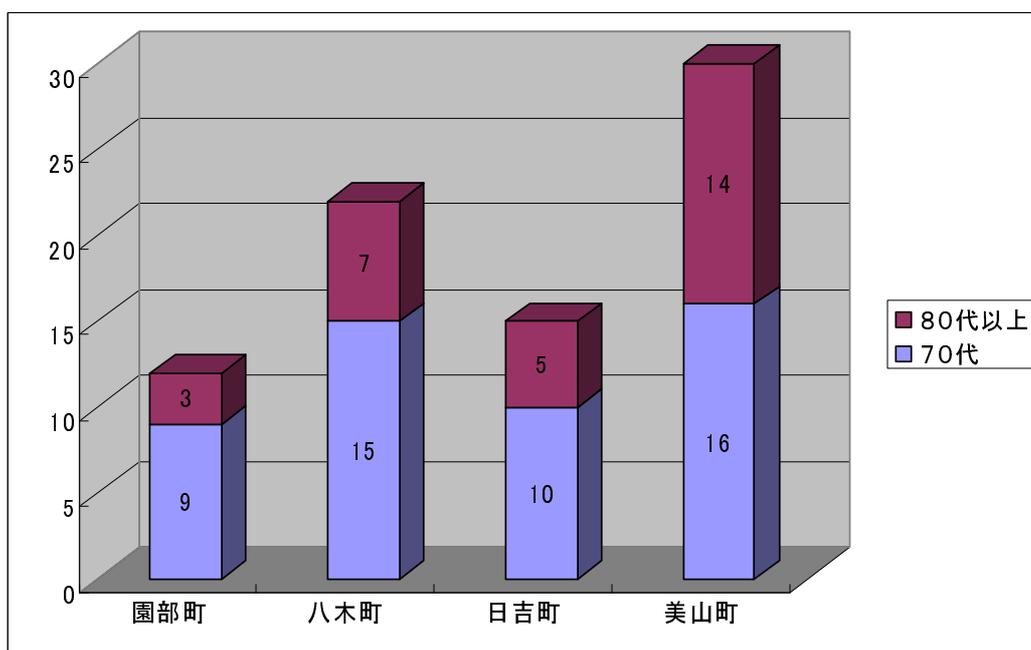
調査対象のうち、留守等を除く79世帯（70.5%）から聞き取りを行うことができた。旧町別には園部町12世帯、八木町22世帯、日吉町15世帯、美山町30世帯である。



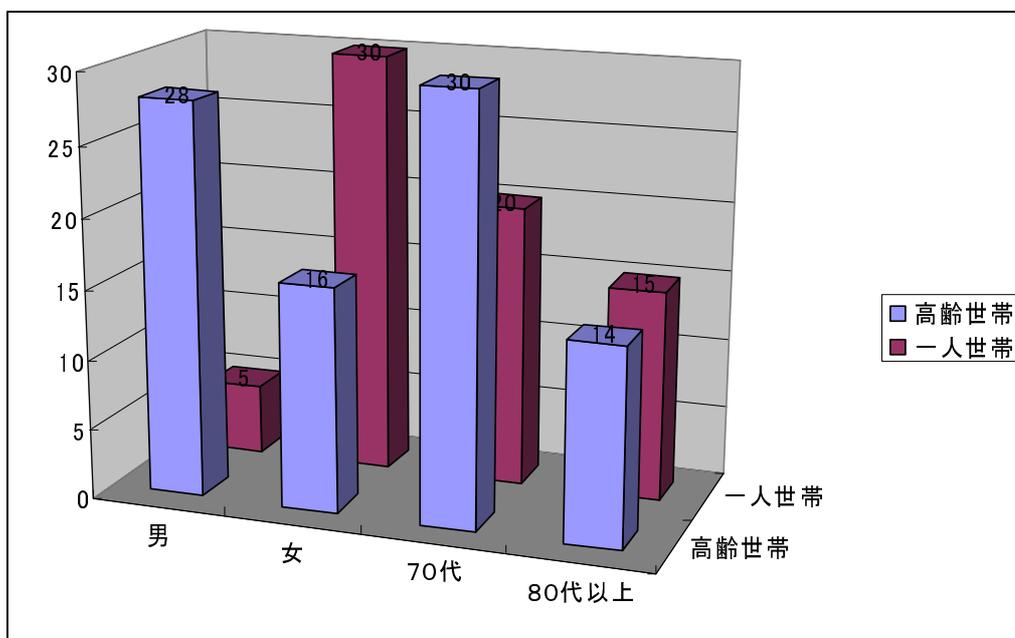
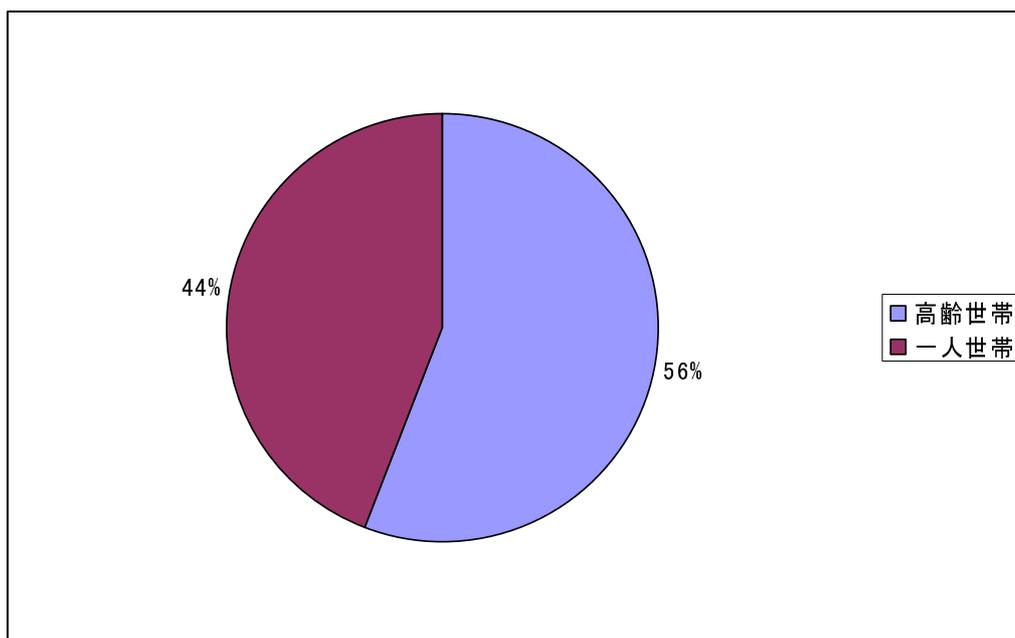
2 聞き取りをさせていただいた方は、男性33人（41.8%）、女性46人（58.2%）で、年齢別では、70代50人（63.3%）、80代以上29人（36.7%）である。



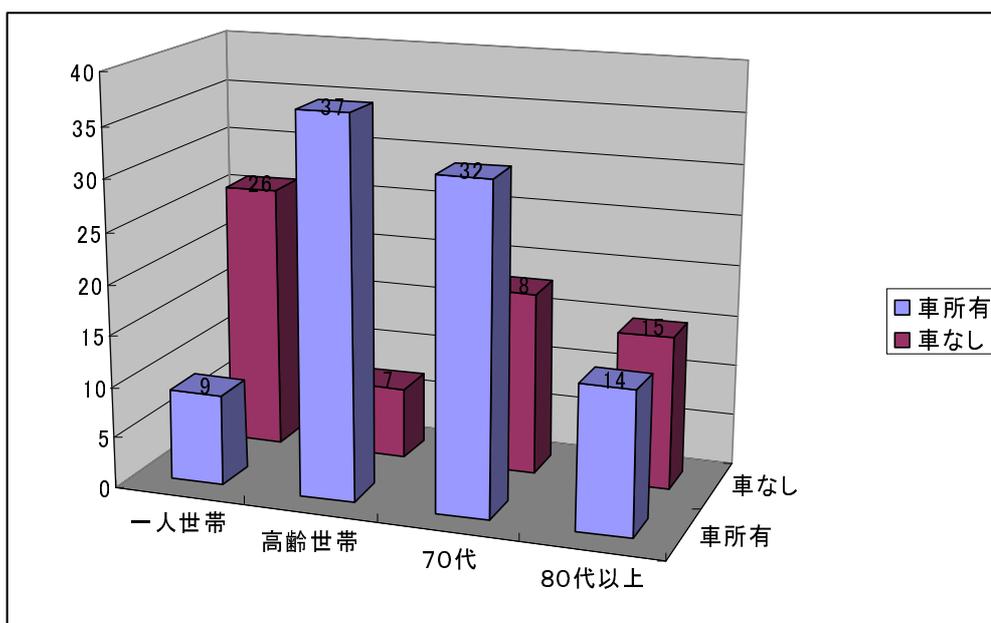
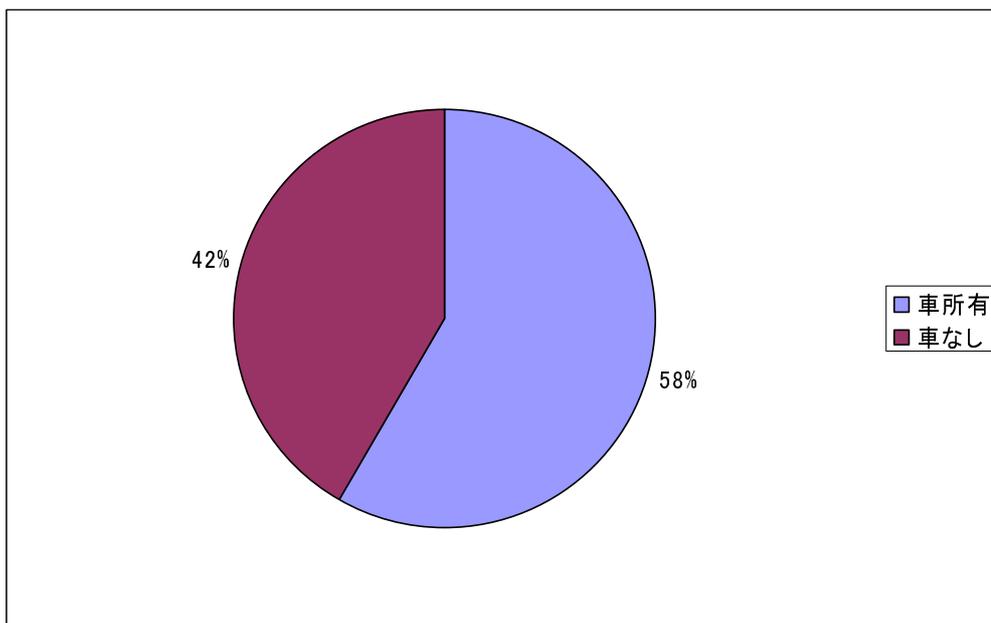
地域別の年齢では、70代が園部町で9人（75.0%）、八木町で15人（68.2%）、日吉町で10人（66.7%）、美山町で16人（53.3%）であり、それ以外の方は80代以上ということになることから、美山町が一番高齢者の比率が高かった。



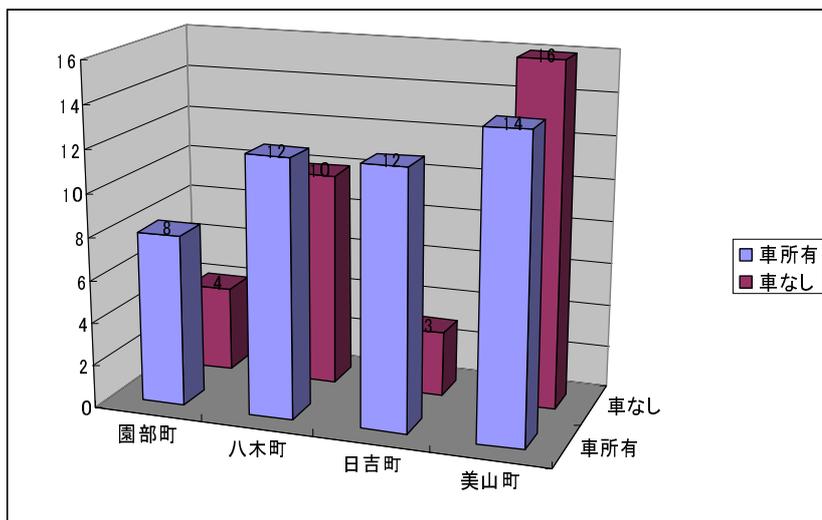
一人世帯の方は35人(44.3%)で、男女別では男性5人(14.3%)、女性30人(85.7%)であったことから、全体と比して女性の一人世帯の比率が高いことが伺える。年齢別では、70代20人(57.1%)、80代以上15人(42.9%)であり、全体と比すると80代以上の一人世帯がやや多い。



3 全体の中で、車を所有されている世帯は46世帯（58.2%）であったが、一人世帯の方では9世帯（25.7%）であり、一人世帯のほうが自家用車を所有されている比率が低かった。年齢別では、70代で32世帯（64.0%）、80代以上で14世帯（48.3%）と高齢になるほど車を所有する比率が低くなった。

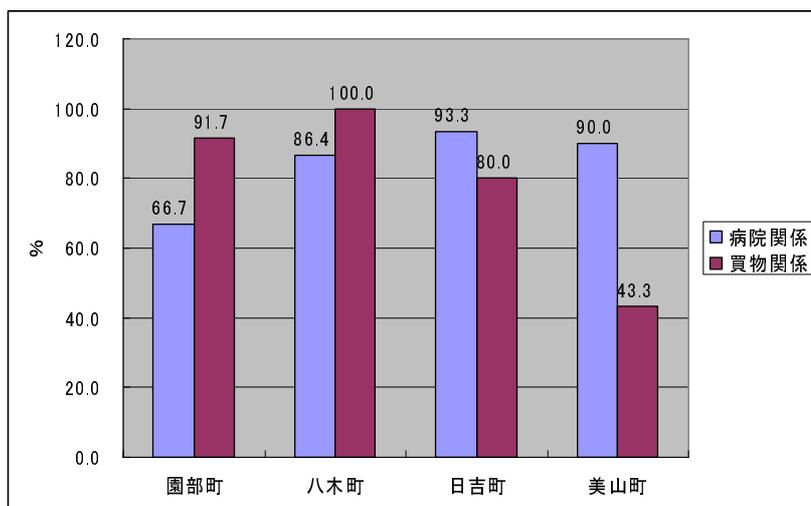


地域別の車所有では、園部町8世帯（66.7%）、八木町12世帯（54.5%）、日吉町12世帯（80.0%）、美山町14世帯（46.7%）であり、日吉町で8割に達した一方、美山町では5割を下回った。美山町が低いのは、全体に比して高齢者の比率が高かったことも要因の一つであると思われる。

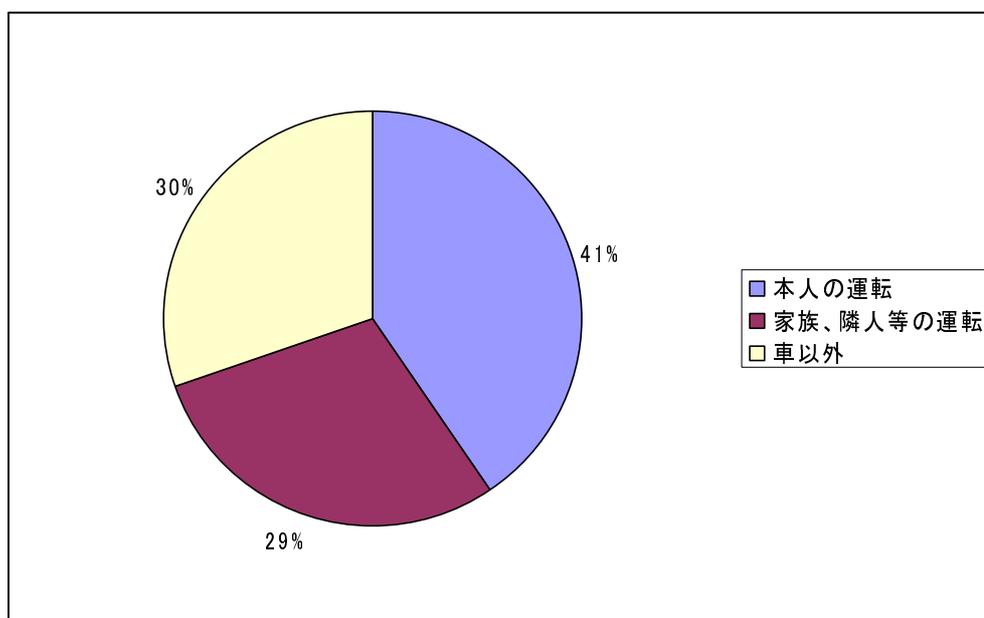


4 外出の目的を見ると、病院と買物がほとんどを占める。外出の目的に病院関係を記載された方は68世帯（86.1%）、買物関係を記載された方は58世帯（73.4%）で、趣味等その他の外出の目的9世帯（11.4%）を大きく上回った。

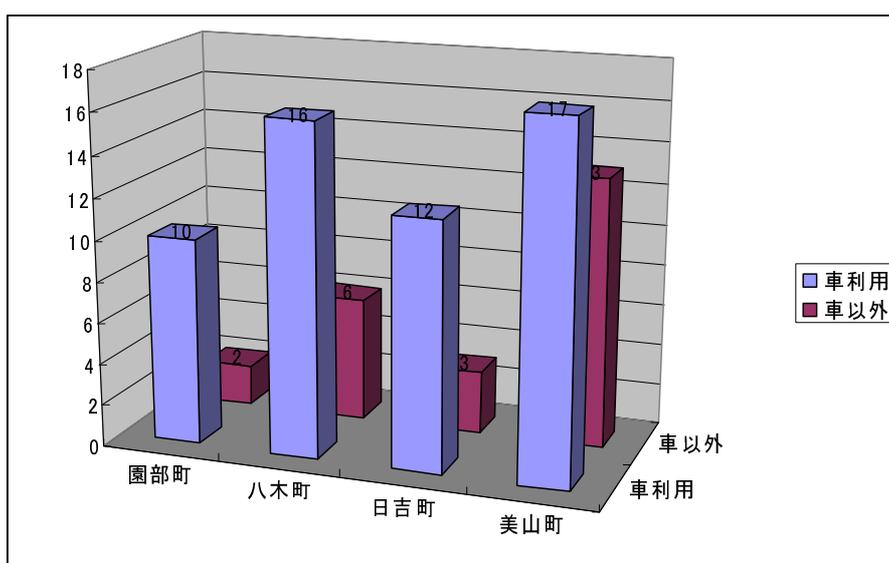
地域別の比率は、下表のとおりであり、美山町で買物関係の比率が低いのは、移動販売サービス等の利用割合が高いためと思われる。



5 外出の手段は、本人の運転により車を利用される方は32人（40.5%）で、家族や隣人等の送迎も含めると55人（69.6%）の方が車を利用されている。

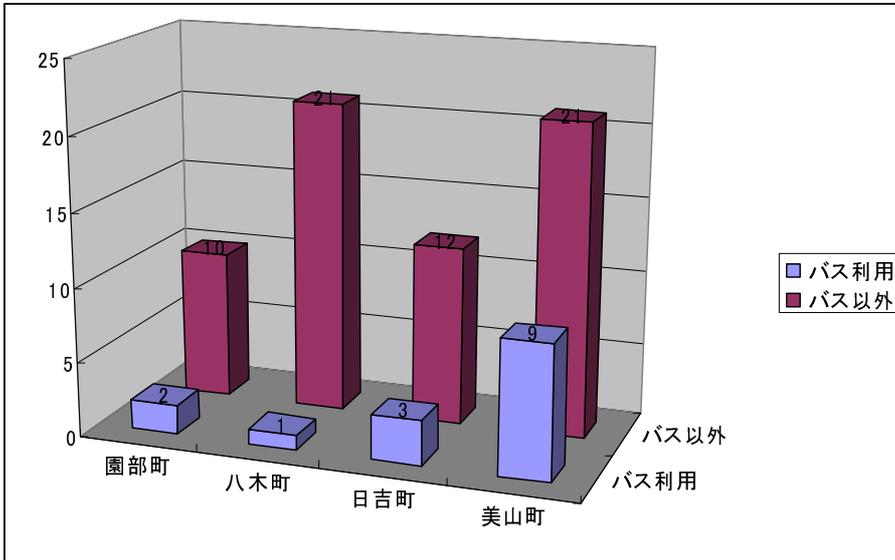


地域別の車利用では、園部町10人（83.3%）、八木町16人（72.7%）、日吉町12人（80.0%）、美山町17人（56.7%）であり、美山町が他の地域に比して車利用の比率が低かった。要因としては前述に同じであると思われる。



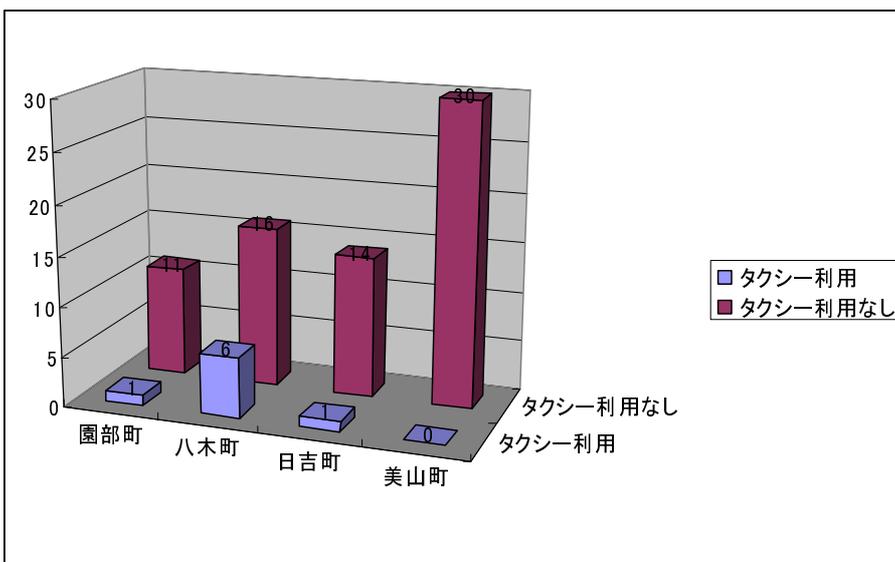
何らかの形でバスを利用されている方は15人（19.0%）で、外出支援を利用されている方は11人（13.9%）であった。車による家族の送迎とバスを併用されている方は3人であった。

バスを利用されている方の地域別では、園部町2人（16.7%）、八木町1人（4.5%）、日吉町3人（20.0%）、美山町9人（30.0%）であり、八木町で低いのはバス路線が少ないためだと思われる。

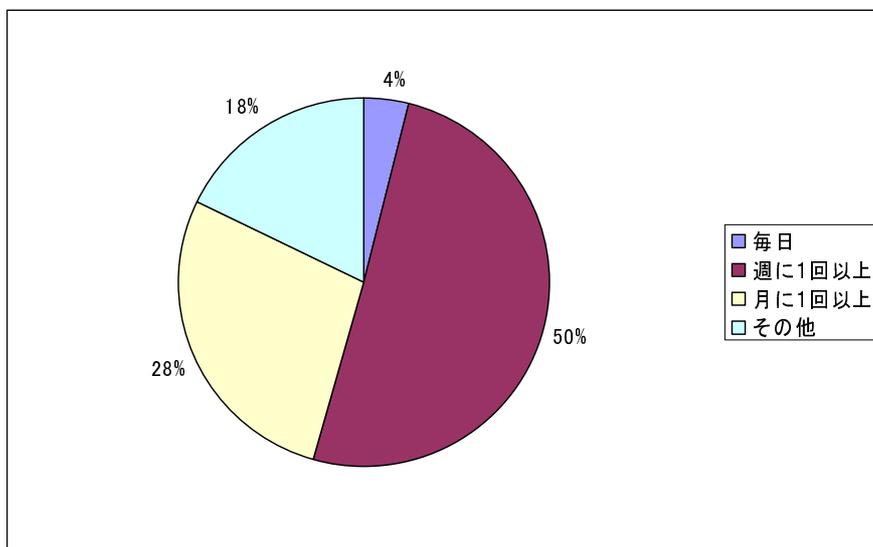


また、何らかの形でタクシーを利用されている方は8人（10.1%）で、地域別では、園部町1人（8.3%）、八木町6人（27.3%）、日吉町1人（6.7%）、美山町0人（0.0%）であった。

八木町で高いのは、市街地が分散しておらず、タクシー利用がしやすい地形であるためと思われる。



6 外出の頻度は、毎日という方3人を含む週に1回以上の方が43人（54.4%）であったが、月に1回以上という方も22人（27.8%）あった。



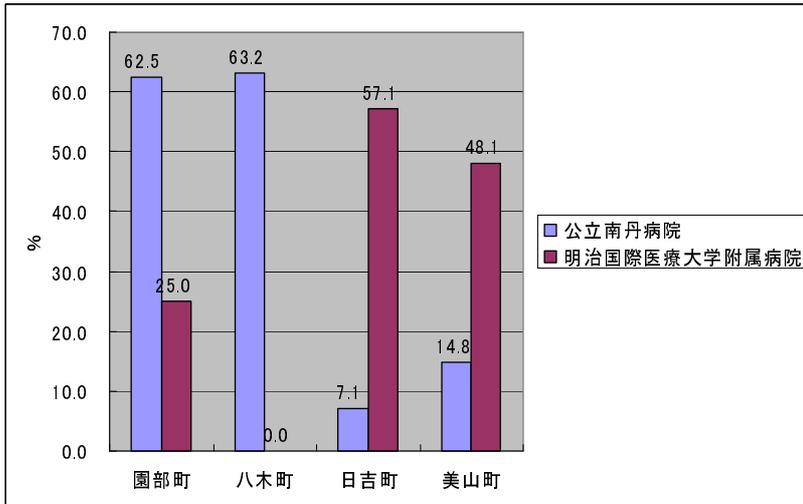
目的別で、週に1回以上の方を見てみると、病院関係で8人（10.1%）、買物関係で36人（45.6%）あり、病院関係に比して買物関係でより頻繁に外出する傾向が見られる。

7 病院関係の詳細を見てみると、公立南丹病院と明治国際医療大学附属病院を利用されている方が多く、その数は公立南丹病院が22人（病院を利用される方の32.4%）、明治国際医療大学附属病院が23人（〃 33.8%）であった。

地域別では、公立南丹病院を利用される方で、園部町5人（〃 62.5%）、八木町12人（〃 63.2%）、日吉町1人（〃 7.1%）、美山町4人（14.8%）であった。

明治国際医療大学附属病院を利用される方では、園部町2人（〃 25.0%）、八木町0人（〃 0%）、日吉町8人（〃 57.1%）、美山町13人（48.1%）であった。

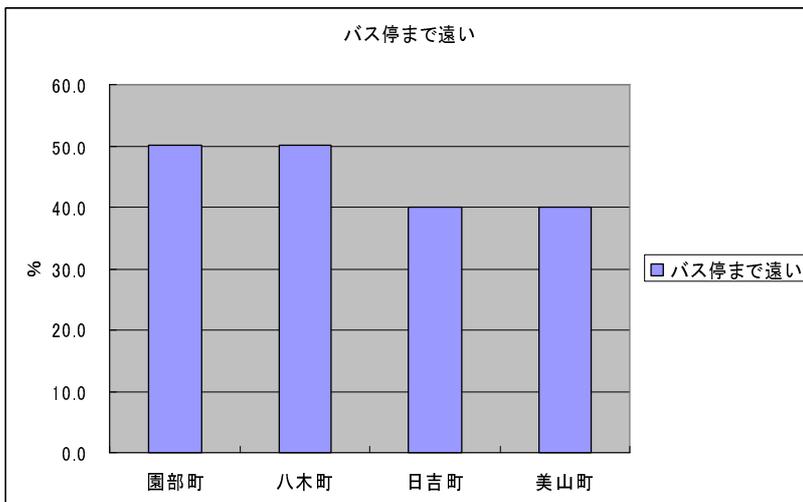
以上から、園部町と八木町では公立南丹病院を利用する率が高く、日吉町と美山町では明治国際医療大学附属病院を利用する率が高いことが伺える。



8 交通の総合的な満足度を見ると、公共交通機関について「利用しない。」という方が5人(6.3%)、「今のところ何とかなっている。」若しくは「満足」という方が9人(11.4%)、バス等が「もったいない。」という方が2人(2.5%)であり、現状では自家用車や外出支援により一定のモビリティが確保できている現状がうかがえる。

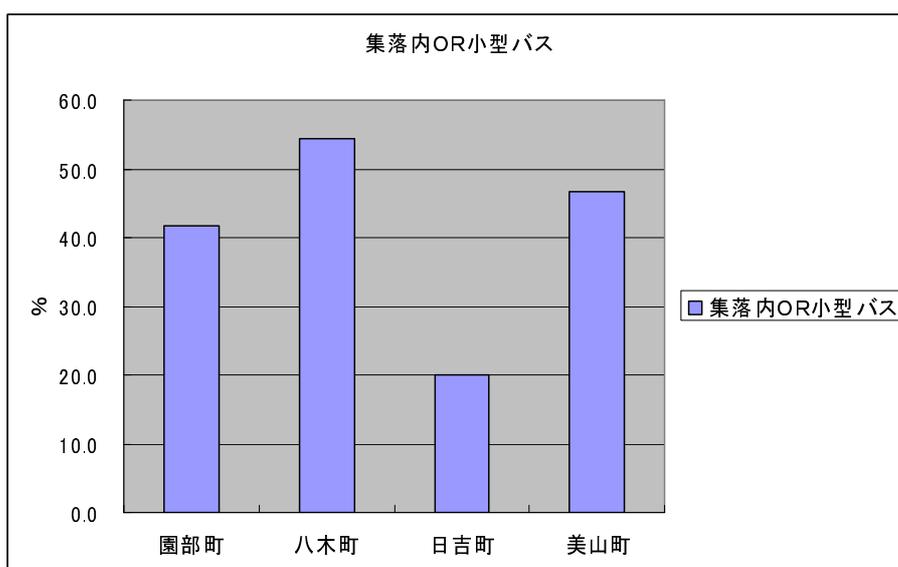
一方、不満と答えた中で一番多いのが、「バス停まで遠い。」の35人(44.3%)であり、地域別では園部町6人(50.0%)、八木町11人(50.0%)、日吉町6人(40.0%)、美山町12人(40.0%)であった。

比較的高い比率であるのは、バス等の公共交通機関の利用が不便だと思われる集落を抽出したためだと思われる。



9 交通に対するニーズとしては、「今後車に乗れなくなると不安」であるので、「週に数度でも小型のバスが集落に入ってほしい。」という声など、最小限でも今後のモビリティ確保を望む声があった。

キーワードを「小型のバス」若しくは「集落内に入るバス」に絞ると、34名（43.0%）の方がニーズを持っておられ、地域別では、園部町5人（41.7%）、八木町12人（54.5%）、日吉町3人（15.0%）、美山町14人（46.7%）であった。



また、外出支援サービスに期待する声も9人（11.4%）からあり、玄関先から目的地までの、「ドア to ドア」のサービスに対するニーズが高いことが伺える。

その他には、「車に乗れなくなると不安」という声など、現在のモビリティは確保できているが、今後について不安視する声があった。

10 以上から、高齢者の今後の交通確保についてのニーズは多いが、公共交通の潜在的な利用者としては、現在の自家用車に依存している方（69.6%）等を考慮するとその数の見込みは厳しいものがある。

需要が少ない場合には路線型の公共交通よりもデマンドに、さらに少ない場合はタクシーの補助等で対応する手法があるが、今回の調査対象である公共交通機関の利用が不便だと思われる集落でどのような手法が適しているかについては、更なる検討が必要である。

なお、検討に当たっては、現在確保されている交通にマイナスの影響が出ないように、バス事業者、タクシー事業者等に配慮する必要がある。